

十六電算デジタルサービス株式会社

所在地：岐阜県岐阜市神田町7丁目12番地
URL：https://www.16dansen.co.jp/



16FG

十六電算デジタルサービス

社内仮想化基盤にまつわる課題を Nutanix Cloud Platform で解消 インフラコストの大幅削減も実現

[BEFORE]

- ◆社内仮想化基盤のリソースが不足しており、信頼性・可用性にも不安が残る
- ◆3Tier構成のためインフラの運用管理に多くの時間と工数を要する

[AFTER]

- ◆「Nutanix Cloud Platform」で高信頼かつスケール可能なインフラを実現
- ◆専用管理ツール「Prism」による一元管理を実現

デジタル化／DX推進支援を通じ 地元企業や自治体の課題解決に 貢献

岐阜県・岐阜市に本社を置く十六電算デジタルサービスは、十六フィナンシャルグループと電算システムホールディングスの合弁により、2022年3月1日に新たなスタートを切ったIT企業である。地銀と上場IT企業の合弁による銀行業高度化等会社は、全国でも同社が初めて。そのミッションは、デジタル化／DX推進に取り組む企業や行政を強力に支援し、地域課題解決への貢献を果たしていく点にある。

十六電算デジタルサービス DX事業部 部長 和田 英治氏は「現在は、年間約655万件(2021年度)の取り扱い実績を誇る集金代行サービス『JCSネット』などの代金回収ソリューションに加え、AI・RPAや情報セキュリティ、ネットワークなどの先進デジタルソリューションを展開しています。また、自社でのペーパーレス化ノウハウを活かしたテレワーク導入支援なども行っています」と説明する。



十六電算デジタルサービス株式会社
DX事業部 部長
和田 英治氏

Nutanix Cloud Platformで 社内仮想化基盤を全面再構築

今回実施されたのが、グループウェアやメールサーバーなどの情報系システムを収容する仮想化基盤の再構築プロジェクトだ。十六電算デジタルサービス DX事業部 部付部長 青木 宏恭氏は、取り組みの背景を「元々この仮想化基盤は、それまで個別に稼働していた物理サーバー群を統合・集約化するために構築したものです。しかし、長年使い続けるうちに、次第にインフラのリソースが逼迫。新しい仮想サーバーを追加するのも困難になっていました」と振り返る。

また、信頼性・可用性の面でも、懸念を感じていたとのこと。旧環境はサーバーをクラスター化することで冗長性を確保しており、運用中にトラブルに見舞われるようなこともなかった。しかし、構築を外部業者に委託したことから、実際に障害が発生した際に本当にきちんと切り替わるのか、一抹の不安を抱えていたという。

さらにもう一つの課題が、インフラ運用管理の煩雑さだ。十六電算デジタルサービス DX事業部 井貝 佑美氏は「旧仮想化基盤は3Tier構成で構

築されていたため、各ハードウェアの監視や管理を別々に行う必要がありました。また、機器間の接続に多くのケーブルを利用する関係上、ラック背面も乱雑になりがちでした」と語る。

旧仮想化基盤が更新時期を迎えたことを機に、同社ではこれらの課題を抜本的に解決することを決断。「新インフラの導入にあたっては、柔軟なスケールビリティと高い信頼性・可用性を、シンプルな構成で実現できることを要件として掲げました」と青木氏は語る。また和田氏も「以前のように構築を外部委託したのでは、次回更新の際に同じような問題に直面しかねません。そこで今回は、自社で導入・構築作業を行い、経験や知見を社内に残すことも重要なポイントとしました」と続ける。

こうしたニーズにマッチするものとして、新たに採用されたのが、ネットワークが提供するハイパーコンバージド・インフラストラクチャー(以下、HCI)製品「Nutanix Cloud Platform」(以下、Nutanix)であった。

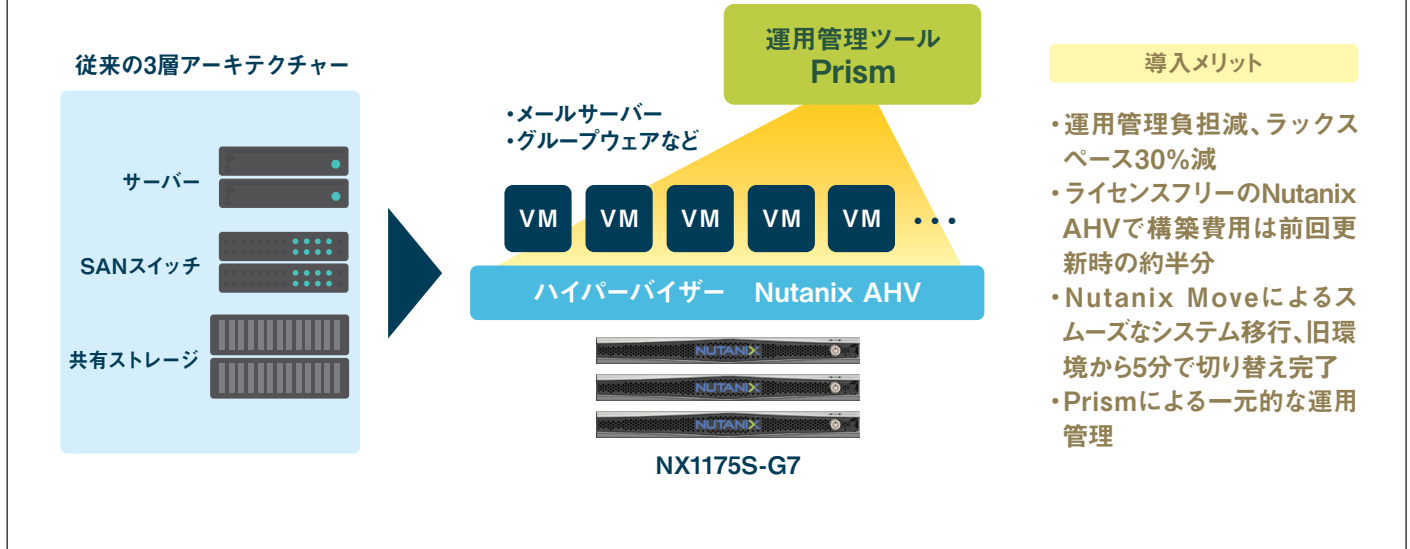
「Nutanix Move」を活用し 安全・確実なシステム移行を実現

製品選定にあたっては、他社HCIとの比較・検討も実施している。その上でNutanixを選んだ理由を、青木氏は「仮想化基盤では、社内業務に欠かせないシステムも多数動いているだけに、旧環



十六電算デジタルサービス株式会社
DX事業部 部付部長
青木 宏恭氏

Nutanix Cloud Platformで社内仮想化基盤の構築費用と運用管理工数を大幅に削減



境からの移行を安全・確実に行わなくてはなりません。その点、Nutanixには、既存環境からのスムーズなシステム移行を支援するツール『Nutanix Move』が用意されています。さらに、日常的な運用管理作業についても、専用管理ツールの『Prism』で一元的に行えます。これらの点を評価し、Nutanixの採用を決めました」と説明する。

実際の構築作業も円滑に実施できたとのこと。青木氏は「Nutanix Moveには、移行した仮想サーバーが正常に起動するが検証する機能も備わっていますので、安心して作業を進められました。旧環境からの切り替え時間も5分程度で、ユーザーの業務に影響が生じるようなこともありませんでした」と語る。

インフラの初期設定やラッキングなどの作業については、ネットワークの支援もフル活用。「ネットワーク設定などで悩んだ点もあったのですが、ネットワークのアドバイスのおかげで無事解決できました」と井貝氏は語る。この結果、作業開始からわずか2ヶ月弱というスピード構築を実現。2021年10月より無事本稼働を開始している。ちなみに和田氏、Nutanixの採用を聞きつけた知人のエンジニアに「HCI導入はかなり難易度が高いので苦労するぞ」と注意されていたのだという。「しかし実際には、こちらが拍子抜けするくらい、何の問題もなくスムーズに導入できました。今となっては、あの指摘は一体何だったのかと思いますね」

と和田氏は苦笑する。

運用効率化と大幅コスト削減に成功 顧客向けソリューションへの活用も

インフラを刷新したことによるメリットも非常に大きい。旧環境で抱えていたリソース不足や信頼性・可用性の問題は完全に解消。大量のケーブルを取り廻す必要もなくなった上に、ラックスペースも約30%削減することができた。

さらに、運用管理負担も大幅に軽減。井貝氏は「Prismは知りたい情報を直感的に把握できますので、以前と比べて運用が大変楽になりました。各種機能の使い方などについても、ドキュメントを読めば簡単に理解できます。今後はファイルサーバー機能を実現する『Nutanix Files』なども使っていきたい」と満足げに語る。

ファームウェアやソフトウェアのアップデート作業についても、以前はそれぞれの機器のバージョンや整合性などを確認しなくてはならず、多くの労力を要していた。「これも現在では、Prismからボタン一つで最新バージョンにアップデートできます。当社でも実施してみましたが、各ノードが自動的に順次バージョンアップされていくので感心しましたね。もし、何らかのトラブルが生じたとしても、元のバージョンにロールバックできるので安心です」と青木氏は語る。

加えて、見逃せないのが、大幅なコスト削減も実現できた点だ。今回からハイパーバイザーをライセンスフリーの「Nutanix AHV」に変更したことなどにより、構築費用を前回更新時の約半分程度に収めることができた。

将来的には、今回の自社実践で培った経験を、顧客企業へのソリューションにも役立てていく考えだ。和田氏は「地域のDXに貢献することが当社の使命です。そこでは、今回得られたノウハウが活きる場面も多いはず。ネットワークとのパートナーシップも最大限に活用し、お客様の課題を解決していきたい」と展望を述べた。

お問い合わせ

株式会社ネットワークルド

<https://www.networkworld.co.jp/>

✉ nutanix-info@networkworld.co.jp

本社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-11-15
住友商事神保町ビル
TEL : 03-5210-5020,5031,5095

関西支店 〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル 24F
TEL : 06-7777-4174

中部支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-17-23
ニッパビル 10F
TEL : 052-588-7611

九州支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1
九勤筑業通ビル 3F
TEL : 092-461-7815

*記載されている会社名および製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。
2022年7月